

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(問一～問十)

外山^{とやま}滋^{しげ}比^ひ古^こ 「何のために『学^{まな}ぶ』のか 中学生からの大学講義1」より出題。

本文は、著作権の関係により、掲載いたしません。

問一 次の一文は、どの段落のあとに入れるのが適当か、その段落の番号を書きなさい。

【そうかと言って、一日じゅう寝ているわけにはいかない。では、起きている間はどうしたらいいか、これはなかなか工夫が必要である。】

問二 A に入ることばとして適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 荒々しい あらから イ 図々しい ずうずう ウ 重々しい エ 清々しい すがすが

問三 B に入ることばとして適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おもしろ イ ところが ウ たとえば エ もちろん

問四 — 線部① 「なにもそれほど難しく考える必要はない」とありますが、どのようなことを「難しく考える必要」がないと言っているのですか。「くこと。」で終わるように、六字で答えなさい。

問五 — 線部② 「そんなこと」が指す内容を、「くこと。」で終わるように、二十五字以内で答えなさい。(ただし、読点は一字にふくむ。)

問六 — 線部③ 「頭の中にないほうがいいと思ったモノ」を言いかえていることばを、6段落より後の本文中から五字でぬき出しなさい。

問七 — 線部④ 「頭の中の掃除」について説明した次の文の(ア)～(ウ)にそれぞれ適当なことばを、本文中からぬき出しなさい。

(ア) の間に、不要な情報や(イ)を整理して(ウ)こと。

問八 — 線部⑤ 「これは非常に理にかなっていた」について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 「これ」の指す内容を答えなさい。

(2) (1) 以外に学校生活のどんな点が理にかなっていたのですか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 音楽などの芸術で心も養う点
イ 同じ教科をずっと学習する点
ウ 授業の合間に休み時間がある点
エ クラブや委員会活動も行う点

問九 — 線部⑥ 「忘れることの必要」とありますが、なぜ「忘れる」ことが必要なのですか。次の1、2にあてはまることばを指定された字数で、本文中からぬき出しなさい。

前の時間に詰め込まれたことを適当に忘れて 1 (九字) ことで、その後の授業に 2 (五字) から。

問十 この文章に十字程度で見出しを見つけなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(問一～問九)

戸森^{ともり}しるこ「ぼくたちのリアル」より出題。

本文は、著作権の関係により、掲載いたしません。

戸森^{ともり}しるこ「ぼくたちのリアル」より出題。

本文は、著作権の関係により、掲載いたしません。

問一 —— 線部①「給食はほとんどのどを通らなかった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不安 イ 期待 ウ 安心 エ 放心

問二 —— 線部②「びっくりして視聴覚室にやってきた」とありますが、先生たちはどんなことにおどろいたと考えられますか。分かりやすく説明しなさい。

問三 —— 線部③「この作戦は成功」とありますが、どのようなことになれば成功なのですか。分かりやすく説明しなさい。

問四 —— 線部④「両手をふりながら、大興奮でとびはねていた」ときのリアルの気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」とサジが、放送委員の決まりを破っていつもとちがう曲を流したので、喜び、おもしろがっている。
イ 「ぼく」とサジが先生にしかられるような放送をしたのでおどろき、ゆかいに思っている。
ウ 「ぼく」とサジが自分のために曲をさがしだし、下校の放送で流してくれたのでおどろき、喜んでいる。
エ いつも放送を担当しないサジが下校の放送をしたのでおどろき、感動している。

